# 「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」

# 対応状況公開資料（概要版）

公開日：令和 6 年 3 月 12 日
最終更新日：令和 6 年 3 月 12 日

株式会社かなめ技術開発
予報業務許可第 190 号（地震動）

本資料は、平成 23 年 4 月 22 日に気象庁から公開された「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能及び配信能力に関するガイドライン」への当社地震動予報業務許可（許可第 190 号）を使用している製品の対応状況を公開するものです。「予報業務の許可等に関する審査基準、標準処理期間及び処分基準（通達）」（平成 24 年 2 月 23 日制定、平成 24 年 3 月 1 日適用）では、許可事業者は利用者にガイドラインの「端末利用者が施す措置の一覧表」掲載の各項目に対する対応状況について利用者に十分な説明を行うことが義務づけられました。本資料は、それらに対する適合状況を公開するものです。

| | |
|---|---|
| 製品名 | 緊急地震速報活用防災システム KANAME-QUICK 外部出力版 Version 4.00 |
| 製造年月日 | 令和 6 年 3 月 |
| 提供形態 | 自社ブランド製品 |
| 動作環境 | Windows PC 上で動作するソフトウェア。<br>対応可能配信事業者・サービス：(a)一般財団法人気象業務支援センター、(b)株式会社 ANET（スタンダードプラン）、(c)株式会社 ANET（シンプルプラン）、(d)アイテック阪急阪神株式会社、(e)特定非営利活動法人リアルタイム地震・防災情報利用協議会、(f)スカパーJSAT 株式会社 |
| 使用目的 | A. 機械・館内放送設備等の自動制御<br>B. オペレータを介した機械・館内放送設備等の制御 |

| | | |
|---|---|---|
| 予報許可事業者・許可番号 | 該当端末で予報を提供している事業者名と気象庁予報番号。 | 事業者名：株式会社かなめ技術開発<br>許可番号：第 190 号 |
| 使用する予報の種類 | 該当端末が使用している予報は、右欄でチェックが入っている（■）ものです。 | ■地震動（震源由来震度）：従来手法<br>■地震動（波面伝播非減衰震度）：PLUM 法<br>■地震動（長周期地震動階級等） |
| 予報を行うために使用している資料 | 該当端末で予報を提供する元となった情報は、右欄でチェックが入っている（■）ものです。 | ■緊急地震速報（予報）電文<br>■緊急地震速報（地震動予報）電文<br>□緊急地震速報（警報）電文<br>■リアルタイム震度電文<br>□事業者独自に観測したデータ<br>□その他（　　） |

| | 項目 | 適合状況説明 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 1 | 気象庁が緊急地震速報(予報)・リアルタイム震度電文を発表してから端末が報知または制御を開始するまでに要する時間 | 気象業務支援センターが緊急地震速報（予報）・リアルタイム震度電文を配信してから端末に緊急地震速報（予報）が届き、画面表示・制御信号出力を開始するまでに要する時間は 1 秒以下です。<br>ただし外部出力（接点出力装置）を用いて館内放送等を行う場合は、放送設備のアンプを起動させるのに時間がかかることがあるため、制御信号の出力開始後音声出力開始までの時間を 0.1 秒単位で遅らせる機能があります。 | 詳細版の(1)-2, (4)-1 を参照。 |
| 2 | 気象庁から端末まで、配信を途切れさせないような対策 | 気象庁から配信サーバーまでは各配信事業者が回線やサーバーを冗長化することによって、配信を途切れさせないような対策を取っています。<br>また、配信事業者は端末の接続状態を監視しており、端末は自己診断機能により受信画面やメール等で異常を通知します。 | 配信事業者ごとの具体的な対策については、詳細版の(4)-2, 8 を参照。<br>端末の自己診断機能については、詳細版の(1)-1, 7 を参照。 |
| 3 | 時刻合わせ | 当社が提供する時刻校正用プログラムにより、自動で時刻合わせを行うことができます。本製品にはこの時刻校正用プログラムの動作を監視する機能があります。<br>配信サーバーの時刻校正については、各配信事業者で対策を取っています。 | 端末の時刻校正機能については、詳細版の(2)-2 を参照。<br>配信サーバーの時刻校正機能については、詳細版の(4)-6 を参照。 |
| 4 | 配信・許可事業者によるサポート | 配信に関する問い合わせは基本的に配信事業者のサービスによりますが、配信に | サポート内容の詳細については、詳 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 関する窓口も当社で行うことも可能です。端末に関する連絡や利用に関するサポートは当社が行っています。<br>配信事業者と許可事業者である当社の連携によりサポートを実施しています。 | 細版の(5)-1 から 8 を参照。 |
| 5 | 耐震固定等地震の揺れへの対策 | 本製品はソフトウェア製品であり、ソフトウェアをインストールした PC を、耐震固定具等を利用して固定してください。 | 詳細版(1)-6 に記載。 |
| 6 | 無停電化 | ソフトウェアをインストールした PC に無停電電源装置等を接続して対応することが可能ですが、無停電化される場合は周辺通信機器等 PC 以外の機器についても必要です。 | 導入時に相談いたします。 |
| 7 | 端末の冗長化 | 常時２系統動作、ホットスタンバイ、コールドスタンバイ等の冗長化構成をご提案することは可能です。 | 導入時に相談いたします。 |
| 8 | 回線：常時接続できる回線<br>回線：専用線等信頼性の高い回線 | 使用目的に応じて配信事業者のサービスとともに推奨する回線をご提案いたします。本端末は複数の配信事業者の複数のサービスに対応しているため、目的・予算に応じたプランをご提案可能です。 | 導入時に相談いたします。 |
| 9 | サーバー端末間の物理回線の冗長化 | 対応可能です。複数の配信事業者の複数のサービスに対応しているため、使用目的に応じて複数の構成をご提案可能です。 | 導入時に相談いたします。 |
| １０ | 予想した猶予時間 | 外部出力については猶予時間の設定機能があり、古い情報は外部出力しない動作が可能です。予想した猶予時間は表示装置で表示することができます。また、画面表示でカウントダウンを行い、猶予時間を報知する音声を館内放送等に用いることもできます。 | 詳細版(3)-1, (3)-4 に記載。 |
| １１ | 予想した震度、長周期地震動階級等や構造物の詳細な揺れの大きさ | 端末を動作させる震度や長周期地震動階級等の設定機能があります。緊急地震速報（警報）と整合した動作も可能です。予想した震度や長周期地震動階級等は画面表示し、設定により音声でも報知します。表示装置での長周期地震動階級等を除き、外部出力も可能です。 | 詳細版(3)-1, 2, 4 を参照。 |
| １２ | 精度情報 | 端末を動作させる精度の設定機能があります。起動条件は、(1)地震動の評価方法として「1 点処理でも地震動評価する」「2 点以上処理でのみ地震動評価する」、(2)表示条件として「全て」「100gal 超えを除く全て」「2 点以上のみ」「警報発表時のみ」「警報対象時のみ」の中からそれぞれ選択します。(1)「2 点以上処理でのみ地震動評価する」と(2)「全て」がデフォルトです。<br>1 観測点による予想である場合には、その旨画面表示します。100 ガル超えでは | 詳細版(1)-12, (3)-5, 6 を参照。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 震度等の予想ができないため、外部出力には使用しません。 | |
| １３ | 深発地震についての緊急地震速報（業） | 震度について、震源の深さが 200km より深いものについては従来手法（距離減衰式）による予想を行わず、画面表示・放送出力を行いません。PLUM 法による震度予想は行います。<br>長周期地震動階級等について、震源の深さが 150km より深いものは予想を行わず、画面表示・外部出力を行いません。 | 詳細版(3)-9 に記載。 |
| １４ | 放送・報知内容 | 内蔵されている放送用音源により、報知音とともに予想した震度または長周期地震動階級等の予想値や猶予時間を音声で報知することができます。<br>(1) 緊急地震速報時<br>報知音とともに猶予時間と震度または長周期地震動階級等の予想値を音声報知し、主要動が到達した後は注意喚起に切り替わります。設定により、猶予時間や予想値は音声報知せず、報知音と注意喚起のみを行うこともできます。<br>(2) 訓練時<br>(1)緊急地震速報時の音声出力の前後に訓練の開始及び終了を示す音声が出力されます。<br>(3) キャンセル時<br>再生途中の音声出力を中断し、取り消された旨の音声が出力されます。 | 詳細版(1)-8, (3)-3, 4 を参照。 |
| １５ | 緊急地震速報（業）で制御、放送、報知を行った後に同一地震または別の地震について提供される緊急地震速報（業） | 一度外部出力を開始したものについて、一連の後の緊急地震速報（業）で設定震度を下回ったとしてもそのまま出力を継続します。別の地震の緊急地震速報（業）でさらに出力条件を満たした場合には、猶予時間や予想値に応じた優先度を計算し、新しいものの方が優先度が高ければ、画面表示と外部出力が切り替わります。これらの動作について利用者は設定できません。 | 詳細版(3)-7, 8 に記載。 |
| １６ | キャンセル報 | 既に外部出力を行った地震に関してキャンセル報を受信した場合には、外部出力を停止した後、接点出力装置と表示装置はキャンセル報の外部出力を行います。外部出力を行っていない地震に関してキャンセル報を受信しても何もしません。 | 詳細版(3)-10 に記載。 |
| １７ | 試験 | 端末単独では、「デモ地震再生機能」「過去地震再生機能」により、想定地震におけるシミュレーションや既に受信した緊急地震速報（予報）・リアルタイム震度電文の再生（画面表示による報知）を行うことができます。この時、外部出力を行うことも可能で、接点出力装置では訓練時の出力を行いますが、信号灯や表示 | 端末機能については、詳細版(1)-9,(3)-12 に記載。<br>配信事業者のテスト報配信については、詳細版(4)-9 を参照。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 装置では本物の緊急地震速報時と同じ出力が行われるため、区別ができません。<br>配信サーバーからのテスト報送信については、配信事業者により対応が異なりますが、テスト報を送信できる配信事業者であればそれを使った動作試験が可能です。画面表示では、それが試験報であると分かる表示を行いますが、外部出力では通常の緊急地震速報と同じであるため、区別できません。試験報を動作に使うかどうかは出力条件として設定することができます。 | |
| １８ | 訓練 | 端末は配信事業者から配信される訓練報を表示・外部出力する機能を搭載しています。画面表示では、それが訓練報であると分かる表示を行います。外部出力でも接点出力装置の場合は訓練報であるかは区別できますが、信号灯や表示装置の場合は区別できません。訓練報を動作に使うかどうかは出力条件として設定することができます。 | 端末機能については、詳細版(1)-10,(3)-11 に記載。<br>配信事業者の訓練報個別配信については、詳細版(4)-9 を参照。 |
| １９ | 配信・許可事業者への連絡 | 配信に関する問い合わせは基本的に配信事業者のサービスによりますが、配信に関する窓口も当社で行うことも可能です。端末に関する連絡や利用に関するサポートは当社が行っています。<br>配信事業者と許可事業者である当社の連携によりサポートを実施しています。 | サポート内容の詳細については、詳細版の(5)-1 から 8 を参照。 |

以上

更新履歴

| | | |
|---|---|---|
| 令和 6 年 3 月 12 日 | Version 1 | 初版 |